

大学生が提供する 社会課題解決の処方箋

今回は熊本県内の大学生らによる、社会課題解決に取り組むサークル活動をご紹介します。

近年の学生は、小学校の授業からSDGsや社会課題解決について学びはじめています。そうした学びもあつて学生らは社会課題解決に対する意識が早くから芽生え、自身の行動を自由に選択できる大学生にもなると、学生主体で課題解決に繋がる取り組みを始めます。今回は熊本県内の大学生らによる、社会課題解決に取り組む3つのサークル活動をレポートします。

球磨焼酎販促サークルTorico

国立大学法人熊本大学では、2021年4月に教養科目「地方創生プロジェクト演習」を開始しました。この演習では「球磨焼酎」をテーマに、2020年7月に発生した熊本県南部の球磨川

とその支流域での大水害からの復興を採り上げました。講義では起業の仕方や地方での事業展開の方法について議論し、若い世代に球磨焼酎に関心をもってもらう方法を学生主体で考えました。1年間で教養科目としての活動は終わったものの、その後も同じメンバーで引き続き活動したいとの想いが学生たちから湧き、2022年4月からは活動をサークル化。Toricoと名付け、東海大学の学生3名を含め、大学の垣根を超えた活動に進展しています。サークルメンバー総勢20名(取材当時)は、それぞれ販促部門、広報部門、観光部門の3つの部門に分かれて活動しました。Toricoの活動の目的はあくまでも球磨焼酎の魅力を発信して、若い世代に球磨焼酎の虜になってもらうこと。この1年間の活動に対する集

大成として球磨焼酎全27蔵元の焼酎を使ったカクテルレシピを中心に、人吉・球磨地方の文化・観光情報や、地域の方々とのコミュニケーションで得た有益な情報を満載した「球磨焼酎カクテル冊子」をまとめました。



▲サークルの活動資金を得るために販売した球磨焼酎のカクテルをかたどったアクセサリ



▲Toricoの定例活動報告会の様子

農家と協力したボランティア サークルD・SEVEN

熊本大学の学生7名によって立ち上げられたボランティアサークルD・SEVEN。2016年に発生した熊本地震の災害復興ボランティア活動を、熊本県北部の菊池市で行った際、同市の中心部から車で10分ほどの位置にある佐野地区が高齢化など多くの問題を抱えていることを知り、それから佐野地区の耕作放棄地の再生や保全活動を行っています。棚田での田植え作業や、栗の木の剪定作業、剪定した枝の処理等、70歳代が占める地元農家さんと協力して耕作放棄地の削減に努めています。サークルメンバー総勢20名(取材当時)が月に2〜3回佐野地区を訪れ、農作業等を行っているほか、佐野地区の方々との交流会や餅つき等のイベントを開催しています。この活動を持続可能なものにするため、収穫した米や栗を返礼品としたクラウドファンディングを実施し、支援金は米袋のデザインなど、主に佐野地区の商品パッケージの開発に活用しています。クラウドファンディングの当初目標額は80万円でしたが、すぐに達成しました。返礼品には特産品



▲地元農家さんとともに汗を流したD-SEVENのメンバー

とともに支援者に向けた季節のお便りを学生が作成して郵送し、佐野地区の魅力を集約した動画や写真はSNSで公開・情報発信するなどして、地域の活性化において貢献しています。



▲栗の枝を剪定したのち癒合材を塗布するD-SEVENのメンバー

盲学校用教材開発普及サークル Soleil ソレイユ

熊本大学工学部の公認サークルであるSoleilの活動は2012年に始まりました。大学の技術職員である須恵耕二すえこうじさんが、全国

の大学から技術系職員が集まった発表会で、全盲の方のための学習機器に関する発表を聞いたことをきっかけに、熊本県立盲学校と共同で音声付き点字ライターを開発・製作し、そこに7名の学生たちが参画したのがはじまり。サークルメンバーは大学院生や理学部の学生も含め20名（取材当時）となり、材料購入が中心の活動資金は、熊本大学が実施する「きらめきユースプロジェクト」に応募。そこで受賞した副賞等によって賄っています。その後も寄贈した教材は全国すべての盲学校に広がり、さまざまなアイデア教材が提供されるようになりました。須恵さんは「開発費の問題さえクリアできれば、教材を受け取る盲学校や生徒さんは喜ぶし、サークルに所属する学生は勉強になり感動も覚えます。さらに開発費を負担していただいた方は社会貢献となります。このプロジェクトを持続可能な活動として今後も続けたい」と話します。サークルの立ち上げから10年が経過し、卒業した学生や活動に理解を示してくれる方に応援いただくためにNPO法人「テクたまご」を設立。昨年Soleilはこれまでの活動が認められ、「くまもとSDGsアワード2022」で表彰されました。



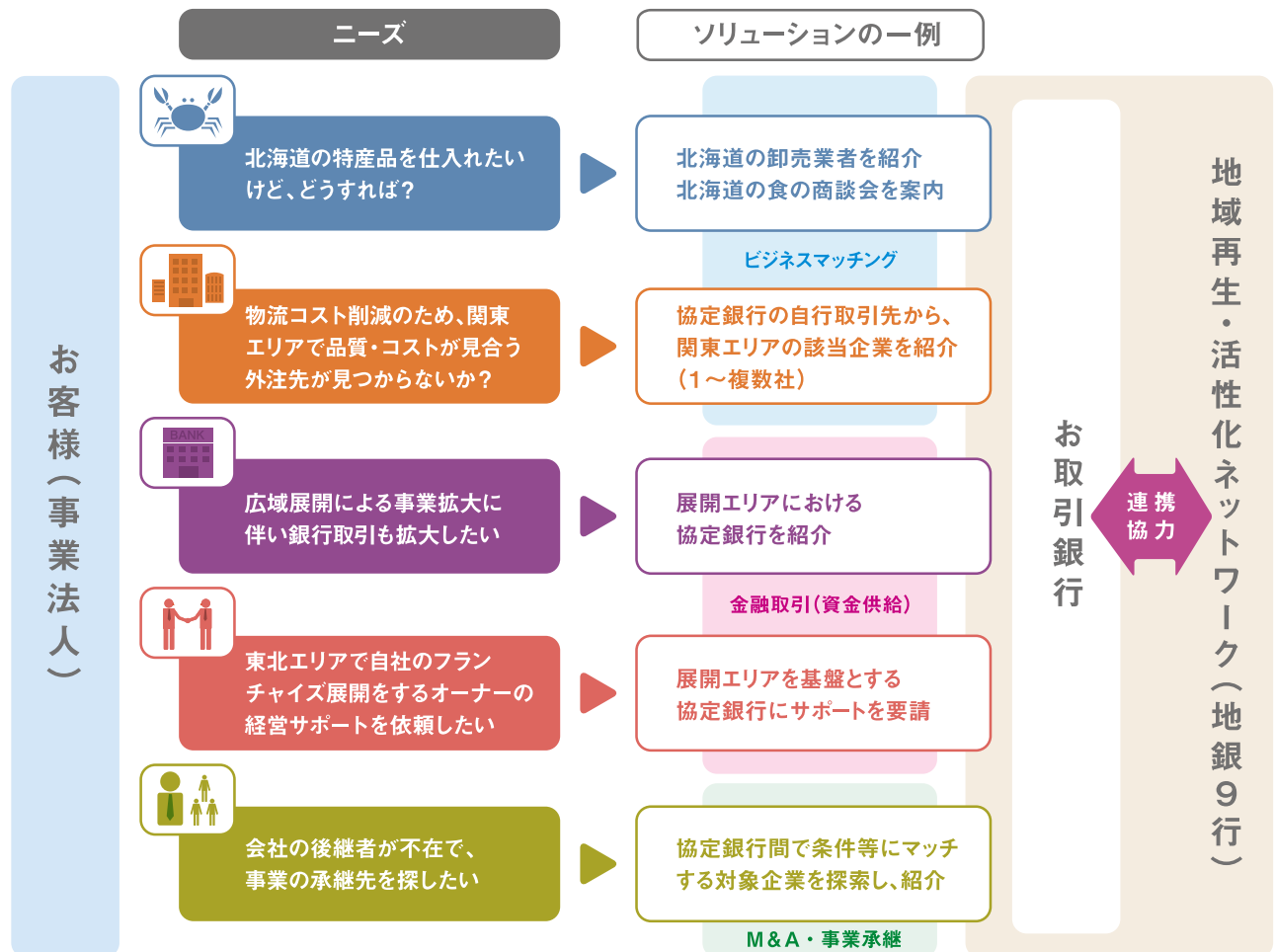
▲工学部棟内のSoleil部屋にて
左から須恵さん、サークルメンバーの矢竹結稀さん、橋本碧さん



▲教材製作の様子

日本全国 県境・地域を越えた 「様々なビジネスニーズ」にお応えします！

このようなビジネスシーンでお困りではありませんか？



全国の地銀9行連携 「地域再生・活性化ネットワーク」について

経営基盤・営業エリアが異なる地銀9行が、様々な情報・ネットワークを相互に活用することで、地域経済の再生および活性化を図るために構築した広域連携です。

県境・地域を超えて活躍する（今後検討される）お客さまのビジネスニーズ等に対して、全国の各エリアをカバーする地域金融機関が連携・協力して対応していきます。

- ① 複数の地方銀行による資金供給（シンジケートローン・協調融資等）
- ② 他エリアの地方銀行のネットワーク情報を活用して、M&Aや事業承継における相手方情報をご提供
- ③ ビジネスマッチング業務にかかる他エリアの地方銀行のお取引先等をご紹介します



- 【注意事項】
- 本ネットワークは、協定書を締結した地方銀行9行の連携・協力に基づき運営されています。ご利用にあたり、お客さまのご要望・ニーズなど、必ずしもご期待にそえない場合がありますのでご了承ください。（個別具体的なソリューションのご提供を確約するものではありません。）
 - 本ネットワークのご利用を希望される場合は、お近くの取引銀行窓口までお気軽にご相談ください。（ご相談は無料です、但し、個別具体的なソリューションのご提供にあたっては、各銀行所定の手数料等がかかる場合があります。）